

南洋からかへつて

鈴木 錬

鈴木さんは大正十二年の東京女高師家事科の卒業生でいらつしやいます。御卒業當時から特殊兒童の教育に深い關心を持たれ、深川の太平小學校に長く教鞭を取つて居られました。その後南洋に行かれ、最近御歸りになつた事を伺ひましたので、共榮圏の一つである南洋、私共の最も關心を持つ南洋に實際一年有餘をお暮しになつていらしたのですから、その御見聞になられたことを差支ない程度伺ひ度いと御願して、書いていたゞいたものです。

尙ほ文中に出て来るクサイ島、ボナヘ島、トラック島等は我が南洋委任統治領内の諸島です。(編輯部)

私が南洋群島クサイ島へまゐりましたのは昭和十五年六月でした。クサイ島にはアメリカの基督教新教の傳道團によつて約九十年前から創められた學校があり、そこに日本語教師として赴任、その後大東亞戰爭がはじまり學校もいふ／＼日本のものとして決戦下にふさはしい内容をもつて新發足致したく、相談のため昨年四月にかへりましたが、都合により残念ながら再渡島を斷念致しました。

さて最初ハラオに着いた時は椰子の並木の鋪裝道路に自動車走り、公園ありデパートありホテルありであり開けてゐるのに驚きました。トラック、ボナヘを経てクサイに着いてみるに二度びつくり、それはあまりにも淋しい原始的な島でした。十分覺悟はして行つたつもりでも、乗つて行つた船が出て行く時には、武士が出陣の時後をふり向かぬさはこのこゝかと思つて椰子の木かげで船に背をむけて涙を押へました。翌日カメラでマングローブ(樹木が海の中に生えて森林を作つてゐる)の間の水路をぬけて日本人は自分一人さういふ學校の部落に連れて行かれる時はまるで浦島太郎か桃太郎か、昔ばなしの中に入つてしまつたやうな心地でした。學校は九十萬坪の土地に島民教師、男女生徒、合せて約百人暮し、半日學科、半日働きました。

飲水は雨水ですから一滴の水にも苦勞するこゝごがありました。スコールに遭つてさぶ濡れになるこゝごにも、炎天で汗して働くこゝごにも慣れました。學校からはカメラでなければ他の部落に交通出来ませんので太平洋の大波がかぶつ

てカヌーから海中へほり出されたこともございます。波の小さい時は水が浅くカヌーを引張つて海を渉らなければなりませんでしたが、四十を超した女の身でも二年間病氣もせず暮らしてございました。

クサイは年中内地の眞夏の氣候でアッパッパ一枚で過ぎました。島民の服装は内地同様節約勵行でだん／＼變つてまゐりましたが私が上陸した當時は女はズロースをはき、スリッパを着、上着を着てゐましたが、スリッパの地はキャラコ程度の肌のすけないものを用ひ半袖がついてゐます。上着は薄地ですが胸はつまり、袖は長く、裾は地面につきさうに長く、髪が多いゆるやかな洋服で用布は六七ヤール入用さきゝました。男は長袖のシャツに長ズボン。髪は女は大人も子供も殆どお下げ、男子はさきわけです。婦人服の柄は年齢による別がなく老人でも眞赤なものを着ます。

手ミシンミアイロンは各家庭の大切な品で男でも自らのシャツ、ズボンをミシンで縫ふ者がございます。寸法は手ではかるさ申します。洗濯物は糊をつけ、白地には青みをつけ土曜日にはアイロンを掛け、日曜日には老幼男女折目正しい色ざり／＼の着物を着て教會に出かける姿は美しく悠長なものでした。但し足は跣足です。アイロンはお襦袢にまで必ずかけます。

家は床の高い簡單なもので、酋長(今は村長)の家なきには椅子がありますが、一般は男女とも板の間に兩脚を前に投げ出して坐ります。邦人の家庭で島民を手傳に頼むと、跣足で部屋に上る事、足を投げ出して坐る事、手づかみで食事することが子供の教育上困るさ申されて居りました。

島民の常食としてはパンの實(一寸さつまいものやうに食べられます)。ハツ頭のすつこ大きいやうな芋、バナナ、ココ、椰子さいふココが出来ませう。バナナ、は生で食べる外、煮ても焼いても干しても油で揚げても食べられます。

ココ椰子も重寶なものでございます。椰子の實の水を飲みます。熱するさ白い果肉が出来、干してコブラさして賣出します。これが内地に送られて色々の油脂の原料になることは申すまでもありませんが、この果肉はそのまゝおやつやうに、副食物のやうに齧ります。これを細かく削つて一寸水を加へ牛乳のやうな白い汁を絞つて米、パンの實、魚芋類等煮た時にかけて食べます。この汁を煮つめるさ甘いジャムの様なものが出来ます。又果肉から揚油もとります。髪油、藥さして肌につける油もさります。コブラは燃やして燈火さも致します。又椰子の花芽を切つて滴る水を罎に受け病氣の時なきの飲料さし、これからは一種の酒も出来るさこのこ。又これからパンだねもさります。この汁を煮詰めて甘い蜜を作ります。椰子の外皮からは椰子

繩をさります。中の硬い殻は細工物にもなりますが、よい木炭になります。椰子の若芽から纖維を取りこれで帽子を編めば所謂スーシャルバナマミなり、男子のズボンのバンド其他の細工物にも用ひます。大きい葉を編んで物を運ぶ籠に致します。細い硬い葉脈の部分を集めて丈夫な箆を作るこゝが出来ます。椰子の實が芽を出しはじめる時は中の水は甘いカステラの様な肉に變つて居り、これもおいしく食べられます。椰子の木は五、六年で實を結ぶやうになるさうですが、それまでに至らぬ若い木を切り倒せば幹は筍のやうに食べられます。

子供の玩具、繪本なき賣る店もまだございませんでした。子供は貝殻でおはじき、椰子の葉で風車、たこの木の葉を組んで中に石を入れてボールミシ投げたり蹴つたりして遊ぶのを見ました。又マンダロープの木の赤い花や、青い棒の様な實を集めて打合せたり、地面にかくしたりして遊んで居るのを見ました。

外地に出してしみじみ人情の有難さを味ひました。彼地に於ける邦人皆様の御親切、島民の親切、又内地より母校の先生はじめ、元奉職校の校長、同僚、教へ子、友人其他の方々の篤き御同情御後援は身に餘る感謝でございまして。

幼稚園の畑 (二)

一寸の空地でも増産に役立てられなければならぬ今日である。幼稚園では從來花壇を必要設備としてゐたが、それも、そ業畑にされるべきが今日であらう。そこで農耕せられた收穫は、たゞへ僅でも幼児又は職員食糧として實用に供せられる。ジャガイモ大に結構、ナンキンマメ大に結構、インゲンマメ大に結構、菜でもホウレンサウでも、先生方がお持ち歸りになつて大に結構。

そ業類でも、それら花は咲く。鑑賞に足るであらう。葉の美しい縁は、その特別の美しさに幼児等の目ま心を慰め樂しますであらう。その點、豪華な花壇の美はないにしても、却つて堅實な美がある。

觀察のためさいふこみなら、花壇の場合少しも變りはない。のみならず、實生活に即する觀察材料として、この方が却て望ましい位である。チューリップを知るより豆の花を、ヒヤシンスを知るより大根の花を知る方が、寧ろより急務たらざるを得ないさもない。況んや、その實をや、その根をや。まことに、實際であり根本であるさいはう。

(第三六頁へつづく)